TASCAM
TEAC PROFESSIONAL

2488neo クイックスタートガイド

この度は、TASCAM 2488neoをお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。このクイックスタートガイドでは、今すぐ2488neoをお使いいただけるよう、まずはデモソングを使ったミックスダウンの説明と、自分で弾いたエレキギターに歌を重ねて録音する場合の操作を例に、簡単な使い方のみを説明しています。詳しい操作方法については取扱説明書をお読みください。

※本文中、**ENTER**キーのように太字の表記は、本体に搭載されているキーや端子を表しています。各キーやつまみの基本的な操作を理解するために取扱説明書の14ページ「第３章　各部の名称と機能」も合わせてご覧下さい。

1．準備

1-a 接続する

※機器の接続は電源を切った状態で行って下さい。

本機の**MONITOR OUT**（モニターアウト）端子をパワードスピーカーやお手持ちのステレオなどのモニターシステムに接続します。

ヘッドホンでモニターする場合は接続する必要はありません。

2488neoの**MONITOR OUT**はバランスアウトに対応した標準ホンジャックです。通常のステレオシステムと接続する場合は「標準ホンプラグ－RCAピンプラグ」の変換ケーブルが必要です。

1-b 電源を入れる

付属の電源コードで本機を100Vの電源コンセントに接続して、パワースイッチを押し込みます。

起動画面を表示した後、ホーム画面（通常使用する画面）が表示されます。

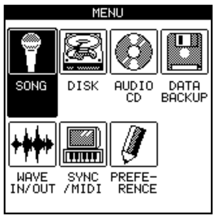
画面が見にくい時は画面の右にある[コントラスト調整ツマミ]で調整して下さい。

※2488neoの電源を入れてからモニターシステムの電源を入れて下さい。

2．デモソングを聴いてみよう

2488neoにはデモソングが収録されています。まずはこのデモソングを再生して、ミックスダウンの方法を覚えましょう。

2-a デモソングの呼び出し



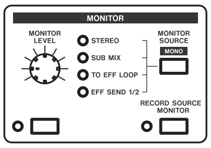
MENUキーを押すと "**MENU**" 画面が表示されます。

カーソルキーで "**SONG**" を選択して**YES/ENTER**キーを押すと "**SONG**" 画面が表示されます。

カーソルキーで "**LOAD**" を選択して**YES/ENTER**キーを押すと "**LOAD**" 画面が表示されます。

JOG/DATAダイヤルで "**2488neo DEMO**" を選択して**YES/ENTER**キーを押すとデモソングが呼び出されます。

2-b モニターアウトの設定



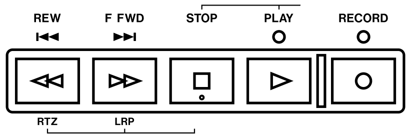
MONITORセクションで "**STEREO**" が選択されているのを確認して下さい。

選択されていない場合は**MONITOR SOURCE**キーを押して "**STEREO**" を選択して下さい。

MONITOR LEVELつまみを最小にして下さい。

2-c ソングの頭出し

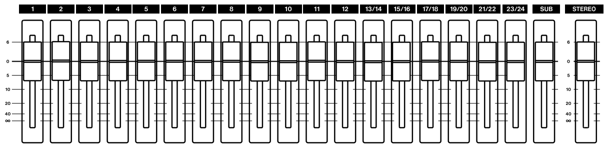
STOPキーを押しながら**REW**キーを押して下さい。



ソングの最初のポイントに時間が移動します。この機能をRTZ(Return To Zero)と呼びます。

2-d 再生

すべてのフェーダーを［**0**］（太線）の位置に合わせて下さい。



モニターシステムのレベルが最小になっていることを確認して、**PLAY**キーを押して再生を開始します。

2-e モニター音量の調整

デモソングの再生が始まって、画面上のレベルメーターが振れていることを確認して**MONITOR LEVEL**つまみを徐々に上げて下さい。ヘッドホンでモニターしている場合はこの時点で音が聞こえるはずです。ちょうどいい音量になるように**MONITOR LEVEL**つまみを調整して下さい。

モニターシステムを使用している場合は、**MONITOR LEVEL**つまみを12時（真ん中）にあわせて、モニターシステムのボリュームを徐々に上げて、ちょうどいい音量で聞こえるように調整して下さい。

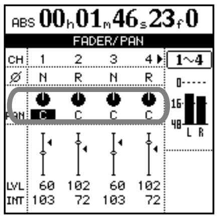
2-f ミックスダウン

ミックスダウンとは録音したトラックをミックスする作業のことです。

デモソングの各トラックはいろいろな楽器の音が録音されています。フェーダーで各トラックの音量バランスを好みのバランスになるよう調整してみて下さい。

トラック13から24はステレオトラックになっていて、１つのフェーダーで二つのトラックのレベルを同時に調整します。

2-f パン（左右の定位）の設定



FADER/PAN キーを押すと **"FADER/PAN"** 画面が表示されます。この画面では各トラックのパンを設定することができます。パンを調整したいチャンネルの **SELECT** キーを押すと、押したチャンネルのパンの設定が表示されます。**JOG/DATA** ダイヤルを回してパンを設定して下さい。

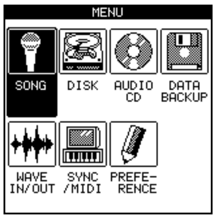
※パンの設定と同様に、**EQ** キーを押して **"EQ"** 画面を表示させることで各トラックのEQ（イコライザー）を設定することができます。詳しくは取扱説明書27ページ「EQの設定」をお読み下さい。

曲が終わったら、**STOP** キーを押して下さい。もう一度ミックスダウンをする場合は、**STOP** キーを押しながら **REW** キーを押して曲の最初からもう一度再生します。

3．新しいソングを作る

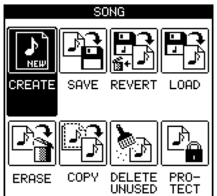
今度は新しいソングを作成して、一から曲を作る場合の手順を説明します。

3-a ソングの作成



MENU キーを押すと **"MENU"** 画面が表示されます。

カーソルキーで **"SONG"** を選択して **YES/ENTER** キーを押すと **"SONG"** 画面が表示されます。



カーソルキーで **"CREATE"** を選択して **YES/ENTER** キーを押すと **"CREATE"** 画面が表示されます。

3-b ソングに名前を付ける

"CREATE" 画面で **SHIFT** キーを押しながら **MENU** キーを押すとソングの名前を設定するための **"SONG TITLE"** 画面が表示されます。

◀／▶カーソルキーで文字を選んで **JOG/DATA** ダイヤルで文字を選択します。

▲／▼カーソルキーで文字の種類を選択できます。

YES/ENTER キーを押すと入力した名前が確定されて **"CREATE"** 画面に戻ります。

3-c ビット数の設定

RESOLUTION フィールドでソングのビット数が設定できます。市販のCDのビット数は16です。24に設定すると、よりダイナミックレンジの広い高音質での録音が可能ですが、16ビットよりも多くのディスクスペースを使用します。

ここでは **"16"** を選択して **YES/ENTER** キーを押して下さい。

新しいソングが作成され、ホーム画面が表示されます。

4．ギターを録音する

まずはエレキギターをトラック１に録音してみましょう。

4-a 接続

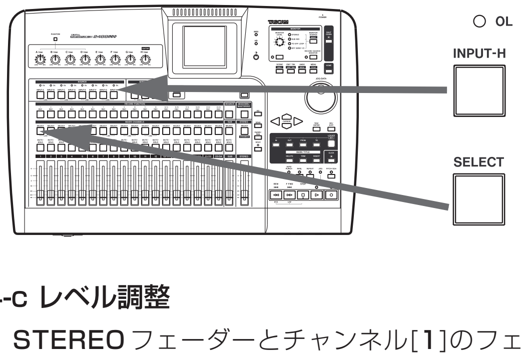
エレキギターを本体前面の **GUITAR INPUT** に接続します。

※アクティブタイプ（電池を内蔵している）ギターや、ギターと本機の間にエフェクターを接続している場合は、リアパネルの **ANALOG INPUTS** の[**H**] 端子に接続して下さい。

4-b トラックへの割り当て

ギターをトラック１に割り当てます。

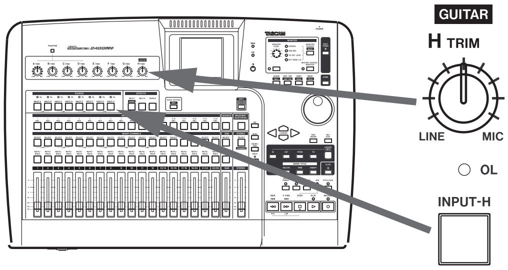
SOURCE セクションの **INPUT-H** キーを押しながらチャンネル１の **SELECT** キーを押して下さい。ギターの音がチャンネル１に割り当てられます。



4-c レベル調整

STEREO フェーダーとチャンネル[**1**]のフェーダーを[**0**]（太線）に設定して下さい。

H TRIM つまみを最小にしてギターを弾きながら徐々にレベルを上げて行きます。ギターを強く弾いた時に **SOURCE** セクションの **INPUT H** の **OL** インジケーターが赤く点灯したら、つまみを少し左に戻して、一番強く弾いた時でも **OL** インジケーターが点灯しないように設定して下さい。

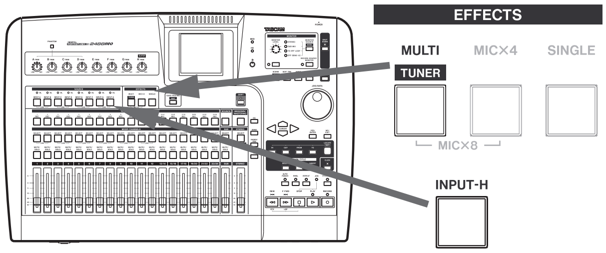


※この時、フェーダーの位置はギターの音をモニターする音量を設定しているだけで、録音レベルを設定しているわけではありません。

4-d ギターにエフェクトをかける

ギターにマルチエフェクトをかけてみましょう。

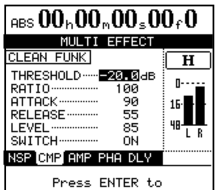
EFFECTS セクションの MULTI キーを押しながら SOURCE セクションの INPUT H キーをして下さい。



ギターの音にエフェクトがかかって音色が変わるはずです。エフェクトをオフにしたい時は、もう一度 MULTI キーを押しながら SOURCE セクションの INPUT H キーを押します。

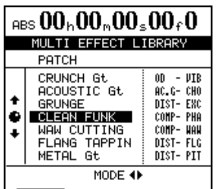
※ギターにエフェクトをかける方法として、MULTI キーを押しながら SOURCE セクションの INPUT H キーを押す代わりに、チャンネル 1 の SELECT キーを押す方法もあります。この場合、ギターのモニター音にエフェクトがかかりますが録音されるギターの音にはエフェクトはかかりません。エフェクトのかかった音を録音したい場合はチャンネルではなく SOURCE にエフェクトをかけるように設定します。

4-e エフェクトの種類を選ぶ



MULTI キーを押すと "MULTI EFFECT" 画面が表示されます。

現在選択されているエフェクトを編集する場合はこの画面で行います。詳しくは取扱説明書 36 ページ「マルチエフェクトを編集する」をお読み下さい。



"MULTI EFFECT" 画面で YES/ENTER キーを押すと "MULTI EFFECT LIBRARY" 画面が表示されます。この画面ではあらかじめ設定されたエフェクトライブラリーを選択することができます。

JOG/DATA ダイヤルで好みのエフェクトを選んで YES/ENTER キーを押して下さい。選択したエフェクトに切り替わります。

好みのエフェクトを選択したら HOME キーを押してホーム画面に戻ります。

4-f ギターのチューニング

マルチトラック録音の場合、沢山の音を重ねて行くことになるので、正しいチューニングは大事です。

SHIFT キーを押しながら MULTI キーを押すとチューナー画面が表示されます。

詳しい使い方は 38 ページ「チューナー」をお読み下さい。

HOME キーを押すとホーム画面に戻ります。

4-g 録音する

RECORD FUNCTION セクションでチャンネル 1 の REC キーを押して下さい。キーが赤く点滅して、チャンネル 1 が録音待機状態になります。

RECORD キーを押しながら PLAY キーを押すと録音が開始されますのでギターを演奏して下さい。

演奏が終わったら STOP キーを押して下さい。録音が停止します。

4-h 録音したギターを聴いてみる

チャンネル 1 の REC キーを押して録音待機状態を解除して下さい。

STOP + REW キーでソングの最初に戻ります。

PLAY キーを押すと録音したチャンネルを再生します。

4-i 録音をやり直す

録音した演奏が気に入らなかった時は、アンドゥ機能を使って録音をやり直すことができます。

UNDO キーを押して下さい。"UNDO/REDO" 画面が表示されます。

画面には今まで行った録音や編集がリストで表示されます。1 つ前の状態に戻るには JOG/DATA ダイヤルでリストの上から 2 番目を選んで YES/ENTER キーを押します。

5．歌を録音する

今録音したギターに合わせて歌を録音してみましょう。

プロのレコーディングではミキサーやモニターシステムがあるコントロールルームとは別の部屋でボーカルの録音を行いますが、レコーダーやモニターシステムがある部屋と同じ部屋でマイクを使った録音を行う場合、スピーカから出た音をマイクが拾ってしまうので、うまく録音できない場合があります。同じ部屋でマイクを使用して録音する場合は、スピーカーでのモニターは使わずに、ヘッドホンをご使用下さい。

5-a マイクを接続する

お手持ちのマイクを ANALOG INPUTS の[A] 端子に接続して下さい。

5-b トラックへの割り当て

マイクをトラック２に割り当てます。

SOURCE セクションの **INPUT-A** キーを押しながらチャンネル２の **SELECT** キーを押して下さい。マイクの音がチャンネル２に割り当てられます。

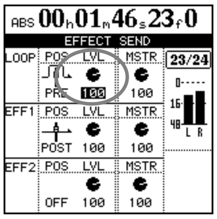
5-c レベル調整

STEREO フェーダーとチャンネル[**2**]のフェーダーを[**0**]（太線）に設定して下さい。

A TRIM つまみを最小にしてマイクで歌を歌いながら徐々にレベルを上げて行きます。**SOURCE** セクションの **INPUT A** の **OL** インジケーターが赤く点灯したら、つまみを少し左に戻して、一番大きな声で歌った時でも **OL** インジケーターが点灯しないように設定して下さい。

5-d 歌にエフェクトをかける

通常、ボーカルのエフェクトはミックスダウン時に使うのが普通ですが、気持ち良く歌を歌うために、ここではモニター音にだけエフェクトをかけて、録音される音にはエフェクトがかからないように設定します。



SEND キーを押して下さい。

"EFFECT SEND" 画面が表示されます。

チャンネル２の **SELECT** キーを押してチャンネル２のエフェクトセンドを選択します。

カーソルキーで一番上の **LOOP** セクションの **"LVL"** を選択して **JOG/DATA** ダイヤルでエフェクトへ送る信号の量を設定します。右へ回すとエフェクトが深くかかり、左に回すとエフェクトがかからなくなります。

エフェクトの細かい設定を行う場合は **SINGLE** キーを押します。エフェクトの設定を行う **"SINGLE EFFECT"** 画面が表示されます。エフェクトの設定については取扱説明書 37 ページ「シングルエフェクト」をお読み下さい。

HOME キーを押すとホーム画面に戻ります。

※録音時に EQ（イコライザー）を使って音を音色を整える事ができます。詳しくは取扱説明書 26 ページ「EQ の設定」をお読み下さい。

※録音時、マイクエフェクト（コンプレッサー）を使って、音量をそろえることができます。詳しくは取扱説明書 34 ページ「マイクエフェクト」をお読み下さい。

5-e 録音準備

RECORD FUNCTION セクションでチャンネル２の **REC** キーを押して下さい。キーが赤く点滅して、チャンネル２が録音待機状態になります。

ソングを最初から再生して先に録音したギターの音を聞きながら、歌を歌ってリハーサルを行います。

この時、ギターと歌の音量はチャンネル１とチャンネル２のフェーダーで設定します。

5-f 録音する

リハーサルが終わったら、ソングの最初に戻って、**RECORD** キーを押しながら **PLAY** キーを押します。ギターの音にあわせて歌を歌って下さい。

演奏が終わったら **STOP** キーを押して下さい。録音が停止します。

5-f 録音した演奏を聴いてみる

チャンネル２の **REC** キーを押して録音待機状態を解除して下さい。

ソングの最初に戻って **PLAY** キーを押すと録音したギターと歌を聞くことができます。

ギターを録音したときと同じように、録音した歌が気に入らなければ、アンドゥ機能を使って録音をやり直すことができます。

ギターや歌の録音と同じ要領で、各チャンネルに様々なパートの演奏を録音することができます。

その他にも、ミスしたところだけを録音し直したり（取扱説明書 43 ページ「「パンチイン／アウト・レコーディング」）録音したデータを編集したり（取扱説明書 52 ページ「トラック編集」）、様々な機能があります。詳しくは取扱説明書をお読み下さい。

録音した演奏をミックスダウン、マスタリングすることでオーディオ CD を作成することができます。詳しくは取扱説明書 61 ページ「マスタリングと CD レコーダー」をお読み下さい。

6．作業を終了する

作業を中断して本機の電源を切る時は事前にシャットダウン操作をする必要があります。シャットダウン操作は一般的なコンピューターでの「終了」や「保存」コマンドと同様で、シャットダウン操作をしないままで電源を切ると、録音したデータは失われてしまいます。

SHUT DOWN キーを長押しすると、**"SHUT DOWN"** 画面が示されます。

シャットダウンを行わずに作業に戻る場合は **NO/EXIT** キーを、シャットダウンを行って電源を切れる状態にするには **YES/ENTER** キーを押します。

YES/ENTER キーを押すとシャットダウン作業を行い、**"SHUT DOWN COMPLETE. Please POWER OFF."** と表示されますので、電源を切って下さい。

Printed in China